2019年度　休眠預金活用事業

# 「事業名：子ども食堂ネットワーク北九州機能強化事業」

# 事後評価報告書

【実行団体】一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州
【資金分配団体】全国食支援活動協力会

---

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金活用事業

子ども食堂
ネットワーク北九州

# もくじ


1 基本情報・事業概要

2 事後評価実施概要
- 2-1 実施概要
- 2-2 実施体制

3 事業の実績
- 3-1 インプット（主要なものを記載）
- 3-2 活動とアウトプットの実績
- 3-3 外部との連携の実績

4 アウトカムの分析
- 4-1 アウトカムの達成度
- 4-2 波及効果
- 4-3 事業の効率性

5 成功要因・課題

6 組織基盤強化の分析

7 結論
- 7-1 事業実勢のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 7-2 事業実施の妥当性

8 提言

9 知見・教訓

10 資料（別添）

# 1．基本情報・事業概要

【実行団体】**一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州**
【事業名】**子ども食堂ネットワーク北九州機能強化事業**
実施期間 ｜ ３年（2019～2022）　　対象地域 ｜ 北九州市

資金分配団体 ｜ 全国食支援活動協力会
資金分配団体事業名 ｜ こども食堂サポート機能設置事業
事業の種類 ｜ イノベーション企画支援事業

**解決を目指す社会課題**

子ども食堂を継続していくために必要な「人・モノ・お金・場所・周囲の理解」は、単体の子ども食堂だけでおこなうことは難しい。子ども食堂の増加と活動内容が多様化により、それらに対応するサポート体制の構築が追い付かない状況である。子ども食堂の開催目的や意義、活動内容などを市民や企業に浸透させるため、ネットワーク機能を強化し、地域活性化や食育活動の推進に必要な事業であることを広く啓発する。

**子どもの貧困（体験や交流を含む）と向き合うこども食堂等居場所を支えるためのサポートセンターのモデル化**

**支援対象**　子ども食堂ネットワーク北九州登録団体及び市内で子ども食堂に関心のある個人・団体

**中長期アウトカム**

「こども食堂等居場所」につながった子どもたちが、食を通じて健康的（自己肯定感や他者への信頼を含む）な生活を送れるようになる

**短期アウトカム**

| | 短期アウトカムを達成するための状態 |
|---|---|
| （01）地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している | （0101）「こども食堂等居場所」を支える企業（ヒト・モノ・カネ等）が集まる<br>（0102）地域に「こども食堂等居場所」を運営したいという人（組織・機関等が増える）<br>（0103）新型コロナウイルス感染拡大収束後も「こども食堂等居場所」が安心して活動できるようになる<br>（0104）「こども食堂等居場所」が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材寄付を受けられるようになる |
| （02）支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる | （0201）学校が「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる<br>（0202）学校以外の様々なところが「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる<br>（0203）「こども食堂等居場所」が望む社会資源とつながることができる |
| （03）こども食堂等居場所が子どもから高齢者まで多様な人々を包摂することができる | （0301）「こども食堂等居場所」の活動者が十分なスキルを有している<br>（0302）フードパントリー・お弁当配布のみ行う団体が居場所運営団体、コミュニティとつながれるようになる<br>（0303）こども食堂等居場所が食に関心を持つ機会を提供出来る様になる<br>（0304）こども食堂等居場所が学び・交流などの多様な体験の場を提供できるようになる |

## 活動

- 支援地域の「こども食堂等居場所」の状況を把握、企業訪問などによる支援要請
- 「こども食堂等居場所」をやっても良いという人（組織・機関等）を募集する
- 食材の物流及び管理・受け渡しの仕組みづくり
- 支援地域における「こども食堂等居場所」MAPを作成し，関係者と共有する
- 「こども食堂等居場所」を対象にした研修会を開催する

## 出口戦略

子ども食堂に関係している社会福祉法人やNPO法人などの人材を基に、研修会などでスキルアップに努め、幅広くコーディネーターの育成を図り、資金調達では子どもの居場所づくりとこれらの事業を組み合わせ事業費を獲得や北九州市社会福祉協議会に設置している子ども食堂応援基金などを活用することも視野に入れている。

# ２．事後評価　実施概要

## ２-１．実施概要

| ①どんな変化をこの事業の重要なポイントと設定し評価を実施したのか | | | |
|---|---|---|---|
| 子ども食堂ネットワーク北九州機能強化のために、既存のネットワーク組織のサポート体制の構築（人材育成と多様な参画）と機能強化（各種事業とサポートの効率化）を図ることで子ども食堂の課題の解決が進み、持続可能な運営と開設が進んでいるかについて評価をおこなった。 | | | |
| ②どんな調査で測定したのか | | | |
| ▼短期アウトカム０１「地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している」の評価 | | | |
| （１）調査方法<br>アンケート調査<br><br><br><br><br><br><br><br>現状調査 | （２）調査実施時期<br>2020年7月、2021年7月、2022年10月<br>2020年7月　アンケート配布27団体、回答19団体（回答率70.4％）<br>2021年7月　アンケート配布団体38団体、回答25団体（回答率65.7％）<br>2022年10月　アンケート配布団体41団体、回答19団体（回答率47.5％）<br>2020年4月、2021年9月、2022年12月 | （３）調査対象者<br>子ども食堂運営者<br>行政担当者<br>子ども食堂運営者・行政担当者 | （４）分析方法<br>2020年、2021年、2022年の子ども食堂運営者アンケートの同質問項目を比較し分析をおこなった。<br>子ども食堂数や相談件数など、子ども食堂再開状況、食材提供企業数など現状調査し集計をおこなった。 |
| ▼短期アウトカム０２「支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる」の評価 | | | |
| （１）調査方法<br>アンケート調査<br><br><br><br><br><br><br><br>現状調査 | （２）調査実施時期<br>2020年7月、2021年7月、2022年10月<br>2020年7月　アンケート配布27団体、回答19団体（回答率70.4％）<br>2021年7月　アンケート配布団体38団体、回答25団体（回答率65.7％）<br>2022年10月　アンケート配布団体41団体、回答19団体（回答率47.5％）<br>2020年4月、2021年9月、2022年12月 | （３）調査対象者<br>子ども食堂運営者<br>子ども食堂運営者・行政担当者 | （４）分析方法<br>2020年、2021年、2022年の子ども食堂運営者アンケートの同質問項目を比較及び累計等分析をおこなった。<br>現状調査集計 |

▼短期アウトカム０３「こども食堂等居場所が子どもによってよいきっかけを生む場になる」の評価

| （１）調査方法 | （２）調査実施時期 | （３）調査対象者 | （４）分析方法 |
|---|---|---|---|
| アンケート調査<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>ヒアリング調査<br>現状調査 | 2020年7月、2021年7月、2022年10月<br>2020年7月　アンケート配布27団体、回答19団体（回答率70.4％）<br>2021年7月　アンケート配布団体38団体、回答25団体（回答率65.7％）<br>2022年10月　アンケート配布団体41団体、回答19団体（回答率47.5％）<br>2020年4月、2021年9月、2022年12月<br>2020年4月、2021年9月、2022年12月 | 子ども食堂運営者<br>子ども食堂参加者<br>行政担当者 | 2020年、2021年、2022年の子ども食堂運営者アンケートの同質問項目の好事例エピソードの抽出をおこなった。<br>ヒアリングからの好事例、エピソードの収集をおこなった。<br>現状調査にて、研修会等開催実施回数など確認作業をおこなった。 |

## ③調査結果の価値判断基準について

アウトカム１：子ども食堂数や増加し、子ども食堂運営に関わる人材や寄付食材の増加、自己資金が少なくなることから安定した子ども食堂運営に繋がっている
アウトカム２：小学校及び小学校以外への子ども食堂の広報件数が増加し、支援地域内で子ども食堂が周知されている。
アウトカム３：子ども食堂運営者を通じて子どもたちの良い変化に関するエピソードが得られ、その数も増加し、子ども食堂の運営に良い影響を与えている

## ２-２．実施体制

| 内部／外部 | 評価担当役割 | 氏名 | 団体・役職 |
|---|---|---|---|
| 内部 | 自己評価統括 | 西村　健司 | 一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州理事 |
| 内部 | 成果のとりまとめ | 下田　佳奈 | 一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州職員 |
| 内部 | 事後評価アドバイス | 長迫　和宏 | 子ども食堂ネットワーク北九州アドバイザー |
| 外部 | 外部評価 | 原口　唯 | 株式会社ＹＯＵＩ代表取締役 |

# ３．事業の実績

## ３-１．インプット（主要なものを記載）

| | 項目 | 内容・金額 | 備考 |
|---|---|---|---|
| | （１）人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など） | 内部：合計13人（担当者２人、中核の子ども食堂４名、北九州市子ども家庭局子育て支援課４名、子ども食堂ネットワーク北九州アドバイザー３名）<br>外部：合計２人（専門家２名） | |
| | （２）資機材（主要なもの） | 冷蔵冷凍庫、運搬車両、PC | |
| | （３）経費実績 助成金の合計（円） | 合計33,619,000円<br>事業費：17,550,000円<br>（内訳　直接事業費：15,622,000円／管理的経費1,928,000円<br>評価関連経費：939,000円<br>コロナ対応緊急支援追加額：15,130,000円 | |
| | ①契約当初の計画金額（円） | 17,750,000円 | |
| | ②実際に投入した金額と種類 | 円<br>（内訳　直接事業費：　円／管理的経費：　円） | |
| | （４）自己資金（円） | 1,660,000円 | |
| | ①契約当初の自己資金の計画金額 | 3,500,000円 | |
| | ②実際に投入した自己資金の金額と種類 | 1,660,000円<br>（内訳　直接事業費：1,660,000円／管理的経費：0円） | |
| | ③資金調達で工夫した点 | 補助金などの応募、子ども食堂関係部局以外からの行政委託 | |

## 3-2．活動とアウトプットの実績

| 主な活動（概要） | アウトプット | 指標 | 初期値 | 目標値 | 目標達成時期 | 実績値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 支援地域の「こども食堂等居場所」の状況を把握する企業を訪問し、支援をしてくれるように説明する | 0101「こども食堂等居場所」を支える多様な人材が主体的に関わり，各役割が整理され，ヒト・モノ・カネ・情報等が集まる体制ができる | ①各役割を主体的に担う人員数<br>②企業・団体・個人からの寄付数 | ①4名/子ども食堂ネットワーク北九州に主体的に関わる人数<br>②寄付件数17件" | ①7名/子ども食堂ネットワーク北九州に関わる人材が増え、業務分担ができ、業務が円滑に実施できている<br>②寄付件数50件 | 2023年2月 | ①13名/子ども食堂ネットワーク北九州に主体的に関わる人数<br>②81件/3年間平均の寄付件数 |
| 支援地域の「こども食堂等居場所」の状況を把握する | 0102地域に「こども食堂等居場所」を運営したいという担い手が増えるとともに、地域住民からの協力を得る事ができる | ①子ども食堂の開設に係る相談件数や開設所数の増加<br>②地域自治組織や地域で子ども食堂に関わる団体数 | ①10団体/令和元年度開設及び相談団体<br>②5団体/地域自治組織が子ども食堂に関わっている団体数 | ①20団体/子ども食堂の開設に係る相談件数や開設箇所数の累計数<br>②10団体/子ども食堂に関わる地域自治組織の累計数 | 2023年2月 | ①新規開設21団体<br>相談件数は41件<br>②子ども食堂に関わる自治組織は22団体。新規開設相談に自治組織が関係しているケースが７割程度である。地域活動の活性化のつながる事業として期待をしている。 |

## 3-2．活動とアウトプットの実績

| 主な活動（概要） | 0ウトプット | 指標 | 初期値 | 目標値 | 目標達成時期 | 実績値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 「こども食堂等居場所」支援する他地域のネットワークと繋がり、情報交換をおこなう | 0103. 新型コロナウイルス感染拡大収束後もこども食堂等居場所が安定して活動できるようになる | ①こども食堂等居場所の再開割合<br>②地域の協力によって再開できている事例が生まれているか<br>③こども食堂等居場所への資金や物資の提供実績 | ①コロナ感染拡大で７割以上のこども食堂等居場所が活動を自粛している。<br>②コロナ流行中の活動について、地域からの理解を得られる苦慮している団体がある。<br>③コロナ感染拡大中の活動のための資金や物資を必要としているこども食堂等居場所がある。 | ①８割以上のこども食堂等居場所が新型コロナウイルス感染拡大収束後に無事再開することができている。<br>②地域との繋がりを作るきっかけとなり、関係性が改善している好事例がある。<br>③企業等からの支援を受け、コロナ渦中も無事活動ができ、収束後も安定的に活動できる状態がある。 | 2022年3月 | ①約７割。社会福祉施設などで再開が出来ていない。施設内での感染拡大を懸念。<br>②自治組織の後押しで、活動を再開。場所の提供（公民館）。<br>③各種団体、地域団体など財政基盤が弱い団体を中心に寄付金を贈呈（５０万円×１０団体など）やキューピーみらいたまご財団からの助成を受け（8団体、45回、3450食）分のお弁当を購入し、配布する等、子どもの居場所の活動の継続的な支援をおこなった。 |

# 3-2．活動とアウトプットの実績

| 主な活動（概要） | アウトプット | 指標 | 初期値 | 目標値 | 目標達成時期 | 実績値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ロジハブシステムと子どもの居場所まに食材を届ける仕組みづくりの構築 | 0104こども食堂等居場所が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材の寄付を受けられるようになる | 生鮮食品を含む冷凍・冷蔵品の寄贈食品・ロス食品の利活用実績として、<br>①マッチングの物量<br>②こども食堂等居場所への食材提供頻度<br>③提供団体数（受け渡す側・受け取る側）の変化 | ①冷凍・冷蔵品がストックできる拠点施設が市内に5ヵ所でき、冷凍車2台を活用し、週1回は冷凍・冷蔵拠点に品物を届ける仕組みができる。現在、協力している企業に周知をおこなうとともに新たな協力企業を行政と連携し、食材管理や食材提供などについて協力を求める。<br>②冷蔵・冷凍拠点に10団体の子ども食堂が必要に応じて拠点に食材を取りに来る事ができる<br>③食材を受け渡す企業5社、保管5団体、受け取り10団体を整備する。 | ①食材管理や食材提供する協力企業が増える。各拠点に、食材提供企業からの食材が冷凍車を活用し、冷凍。冷蔵拠点にストックされ、各子ども食堂が必要な時に取りに来ることができ、品物が受け渡し管理が帳簿上管理できている。<br>②子ども食堂に入荷・在庫情報提供し、冷蔵・冷凍拠点にある食材を子ども食堂実施前に取りに来ることができる。<br>③食材を受け渡す企業10社、保管5団体、食材が必要とされる全子ども食堂が受け取りをできる。 | 2021年10月 | ①ネットワークと市役所で帳簿管理をしており、ロジハブ拠点のストック容量も十分確保できている。<br>②寄付食品についてはネットワーク内にロジハブシステムを構築、食材担当職員を配置し、食材ニーズの確認から配送までをおこない子ども食堂に食材を提供できる仕組みとなっている。<br>③食材の提供企業<br>食品提供企業39社、保管はロジ3ヶ所、ハブ5ヶ所。寄付食品についてはロジハブシステムを構築しハブ拠点から子ども食堂食材を受渡しができるようにしている。 |

## 3-2．活動とアウトプットの実績

| 主な活動（概要） | アウトプット | 指標 | 初期値 | 目標値 | 目標達成時期 | 実績値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 行政との協働による教育委員会を通じた学校で広報するためのサポート | 0201学校が「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる | 子ども食堂開設校区における学校の周知割合 | 5回/学校による周知件数÷アンケート回答子ども食堂数による割合 | 7回/新規開設の子ども食堂における学校の協力割合が初期値と比較し増加している | 2023年2月 | 令和2年度　平均5回<br>令和3年度　平均8回<br>令和4年度　平均5回 |
| 自治会の回覧板での広報等が学校外で広報サポート | 0202学校以外の様々なところが「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる | 子ども食堂開設校区における学校以外の広報協力件数 | 6回/小学校以外での周知件数÷アンケート回答子ども食堂数による割合 | 8回/既存+新規開設の子ども食堂での周知件数/子ども食堂数による割合が初期値より増加している | 2023年2月 | 令和2年度　平均 9回<br>令和3年度　平均16回<br>令和4年度　平均 9回 |
| 子どもの居場所への提案等による社会資源へのつながりづくり | 0203「こども食堂等居場所」が望む社会資源（商店会や児童館，学校，学童，こどもクラブなど）とつながることができる | 子ども食堂に参加する社会資源の増加数 | 52団体/子ども食堂に協力する社会資源総数 | 75団体/社会資源の参加数が初期値比較で増加している | 2023年2月 | 120団体/子ども食堂団体の増加に伴い、社会資源とのつながりも増加 |

# 3-2．活動とアウトプットの実績

| 主な活動（概要） | アウトプット | 指標 | 初期値 | 目標値 | 目標達成時期 | 実績値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもの食堂からの居場所への訪問活動 | 0301「こども食堂等居場所」の活動者が十分なスキルを有している（ここでのスキルとはこどもの話に耳を傾けるや色々な気づきを得られるなど） | 子ども食堂からの相談件数とエピソード件数 | 28エピソード | 100エピソード/それぞれの子ども食堂が相談でき、エピソードを持つ | 2023年2月 | 70エピソード |
| フードパントリー及びお弁当配布の支援 | 0302フードパントリー・お弁当配布のみ行う団体が居場所運営団体、コミュニティとつながれるようになる | フードパントリー等実施数 | 9団体/フードパントリー・お弁当配布を中心に実施する子ども食堂数 | 18団体/子ども食堂の運営とともにフードパントリー・お弁当配布を中心に実施する子ども食堂数 | 2023年2月 | 19団体 |
| 食育研修会の実施や子どもの食堂からの居場所への訪問活動 | 0303こども食堂等居場所が食に関心を持つ機会を提供出来る様になる | 子ども食堂運営者に向けた食に関する研修会実施回数 | ①1回/子ども食堂運営者に向けた食育研修等の開催<br>②11エピソード/子ども食堂に参加する子ども達からの食に関心を持つエピソード | ①5回/子ども食堂運営者に向けた食育研修等の開催累計数<br>②30エピソード/子ども食堂に参加する子ども達からの食に関心を持つエピソード累計数 | 2023年2月 | ①5回<br>②20エピソード |
| 子ども食堂と防災研修、子ども食堂運営者向け研修、子ども食堂協力企業との研修会、食でつながるフェスタなどの実施 | 0304こども食堂等居場所が学び・交流などの多様な体験の場を提供できるようになる | イベントの実施及び研修会の参加人数 | 1回/食に関するイベントや見学会の開催や参加数 | 5回/食に関するイベントや見学会の開催や参加数 | 2023年2月 | ８回<br>延べ590名の参加 |

コロナ禍での子ども食堂

子ども食堂マップ

食でつながるフェスタ
In北九州

子ども食堂団体との
衛生管理研修

社協による基金設立

企業との連携による
ロジ拠点

ハブ拠点設置の冷蔵庫
冷凍ストッカー

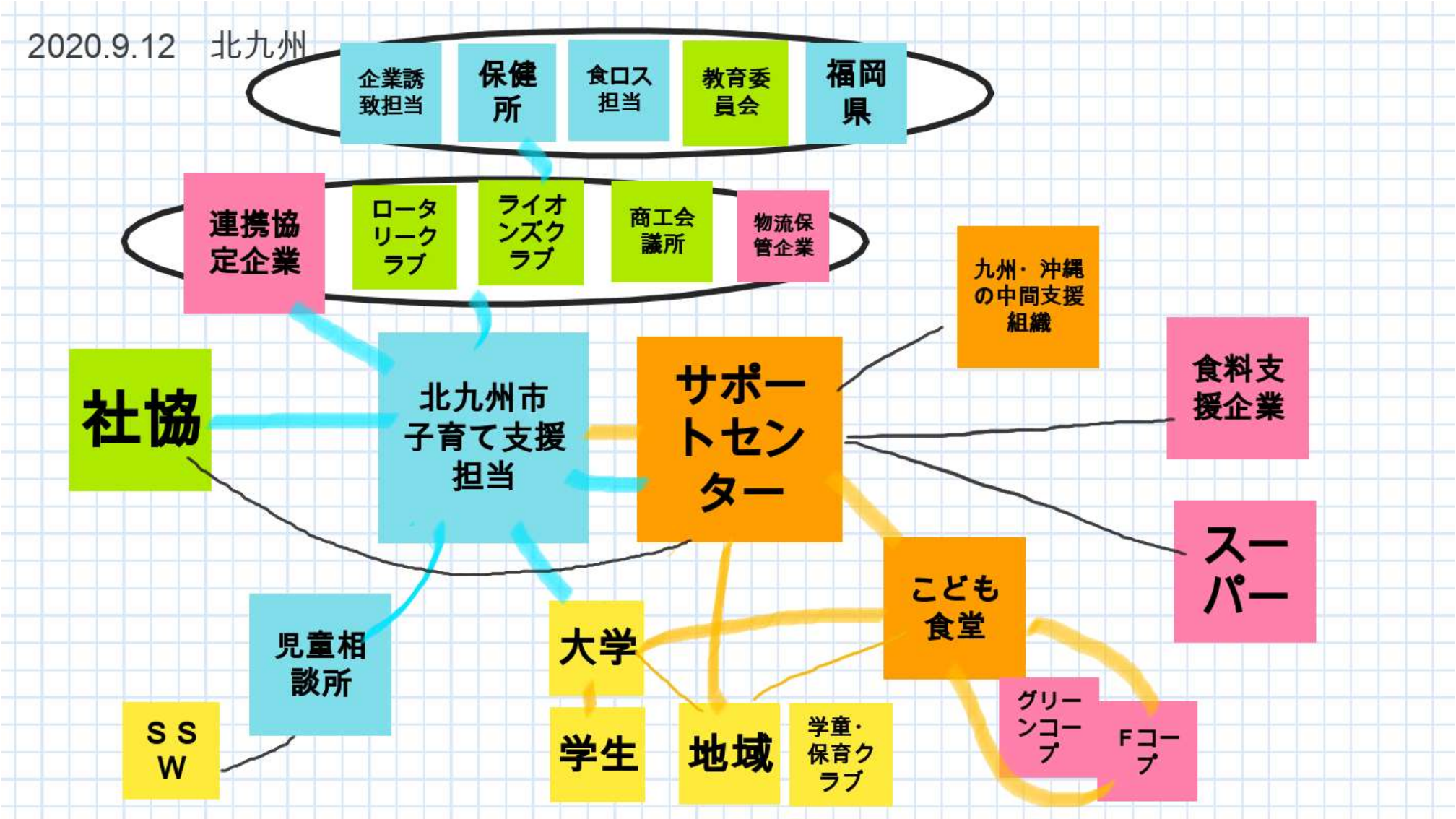
購入車両と企業による
食材の寄付

フードパントリー実施風景

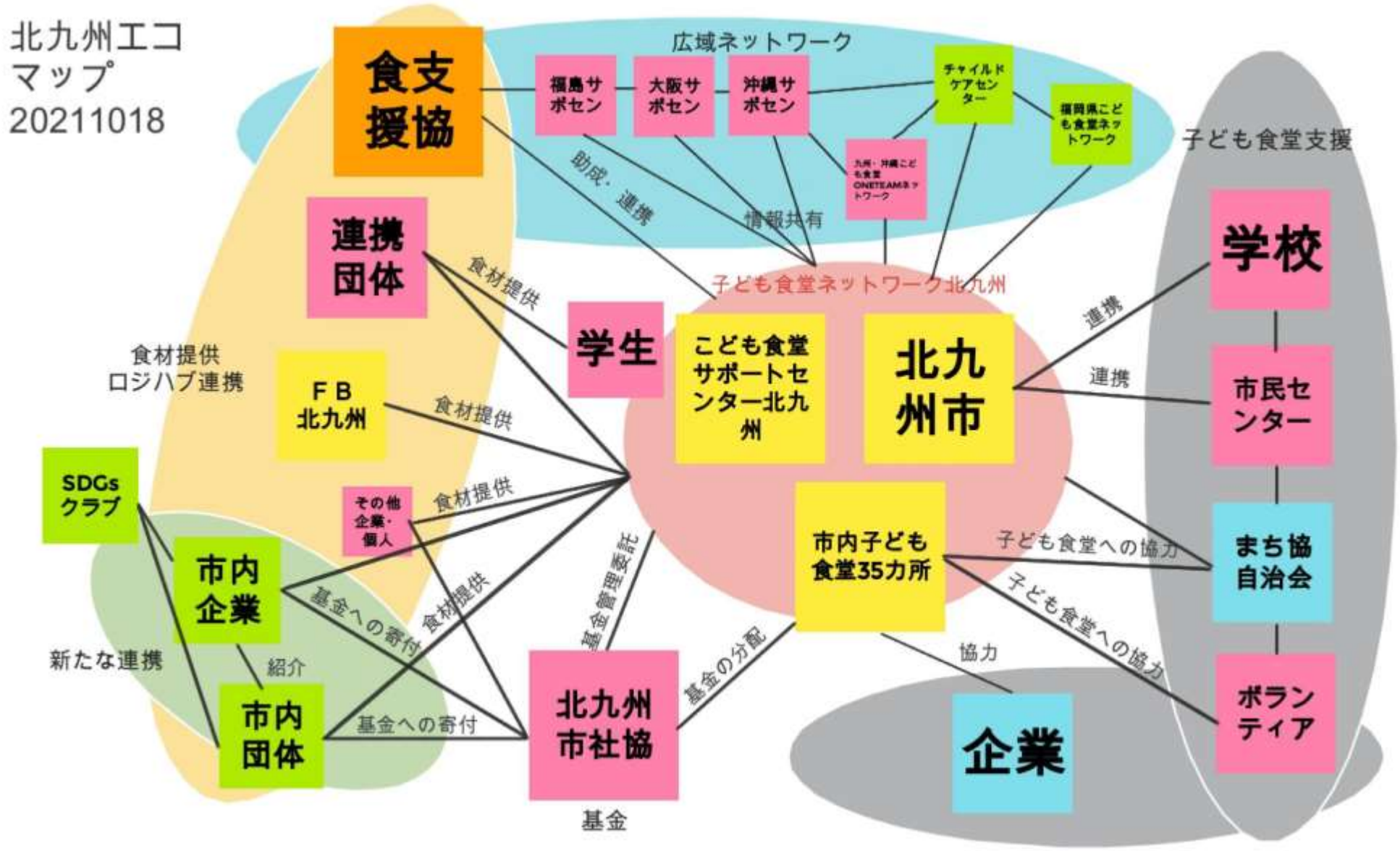
子ども食堂への寄付金の
贈呈

寄付食材の運搬

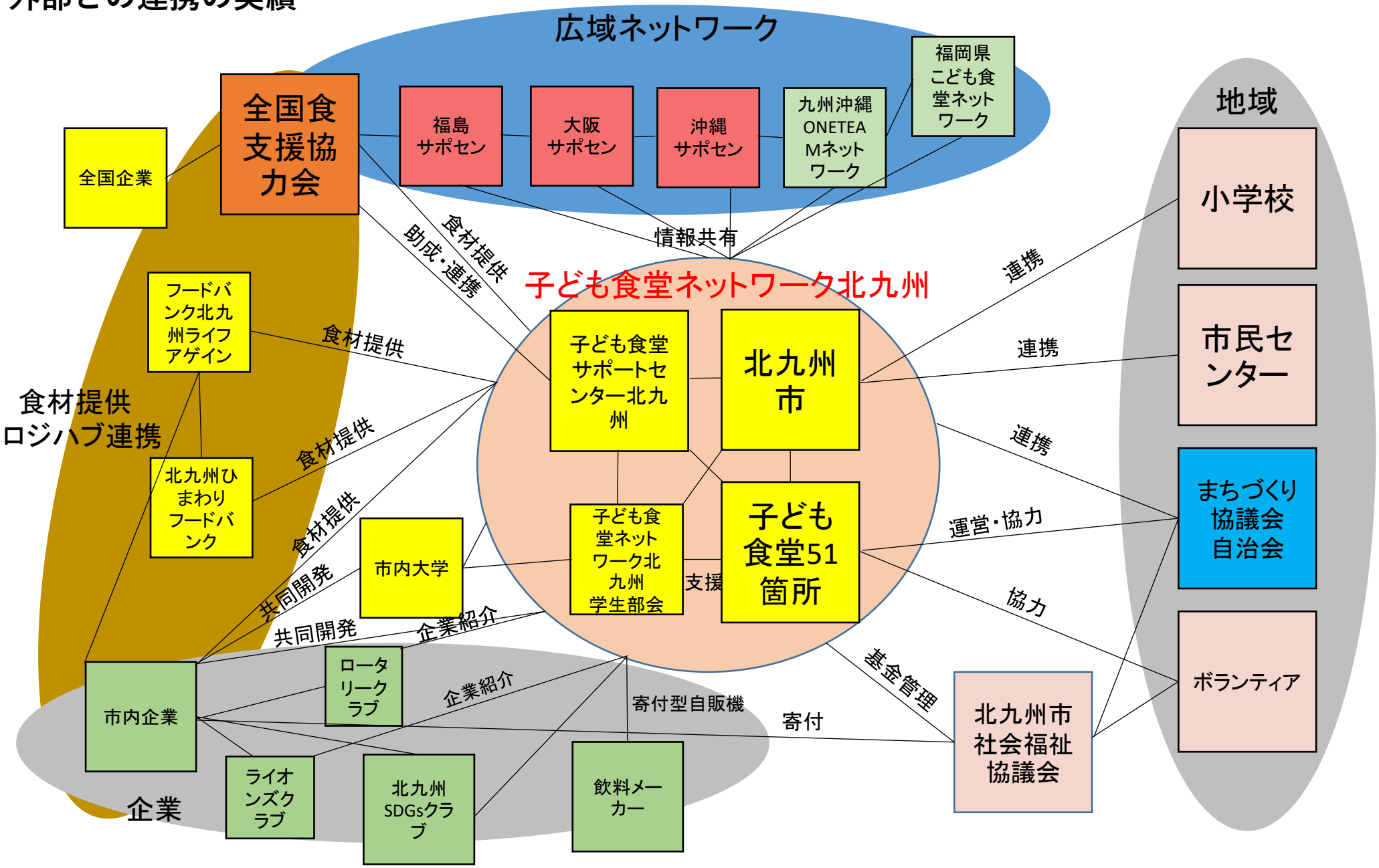
## 3-3．外部との連携の実績



## 3-3．外部との連携の実績



## 3-3．外部との連携の実績



# 3-3．外部との連携の実績

## 外部との連携の実績（事例）

事例１：資さんうどんキッチンカーによる子ども食堂への食事提供

・月に1度、1つの子ども食堂に対して企業が所有するキッチンカーによる子ども食堂への食の実施をおこなっている。
・企業から事業を協働している北九州市に対し相談があり、各区に訪問できるような子ども食堂への訪問マッチングをおこない継続的な活動として実施している

事例２：アサヒ飲料株式会社とのラッピング寄付型自販機の設置

・食でつながるフェスタin北九州でアサヒ飲料株式会社より、ラッピング寄付型自販機の説明を受け、子ども食堂を実施しているクレカ若松に第1号を設置した。
・ロータリークラブやライオンズクラブ、北九州SDGsクラブでの子ども食堂の説明をした際に寄付型自販機の協力提案をおこない、賛同いただいた企業に設置しており、この3年で11台までに設置台数が増加した。

事例３：響灘菜園株式会社×九州栄養福祉大学×モンゴルカレー×西日本工業大学とのトマトカレーの開発

・子ども食堂に定期的にトマトを提供いただいている響灘菜園株式会社より、肌荒れトマトが100ｔあり利活用できないかとの相談があった
・響灘菜園株式会社と九州栄養福祉大学によるレシピ開発、西日本工業大学によるネーミングとパッケージ協力を得て、レトルトのトマトカレーが完成。北九州市長への贈呈式を実施

# ４．アウトカムの分析

## ４-１．アウトカムの達成度　　（１）アウトカムの計画と実績

### アウトカム１　《「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している》の達成状況

指標：①「こども食堂等居場所」の数が増えている
②「こども食堂等居場所」の人材が充足している
③「こども食堂等居場所」の食材の受け取りや持ち出しの金額が減っている
④市民講座等への子ども食堂運営者の講師派遣

**初期値・初期状態**

①３０ヵ所/令和２年４月段階の開設数
②４ヵ所/人材に関して満足している子ども食堂数
③１８１，０００円/開催子ども食堂の年間平均自己資金額
④５名/令和元年度に講師として活動した子ども食堂関係者数

**目標値・目標状態**

①４２ヵ所/子ども食堂数が増加している
②８ヵ所/運営者が考えるボランティアスタッフ数を確保できている
③１２０，０００円/各子ども食堂に食材が多く提供され、自己資金額が減少している
④１０名/子ども食堂運営者が市内の市民講座で子ども　食堂について講演できるようになり、その人数が増える

**目標達成時期**

２０２３年２月

**これまでの活動をとおして把握している変化・アウトカムの発現状況**

①現在北九州市内の子ども食堂数は3年間で21カ所増加している
20年4月30ヵ所　　21年3月35ヵ所　22年3月42ヵ所　23年1月51ヵ所

②人材に関して満足している子ども食堂は９ヵ所と増加している。新型コロナウィルスの影響の長期化によりスタッフ確保が難しい時期もあったが、地域自治組織や学生に声をかけ対応していた。
　20年4月4ヵ所　20年7月9ヵ所　21年7月９ヵ所　22年12月8ヵ所

③自己資金については事業開始時と比較して平均して約10万円程度減少した。21年度は感染症拡大により子ども食堂の開設ができなかった時期も長く低くなっていると推察される。
　20年7月191,000円　21年7月80,000円　22年12月93,000円

④子ども食堂運営者が市内の市民講座で子ども食堂については毎年１名づつ増加しているが、講演する機会の減少により目標には届いていない状況である。
　21年3月　5名、22年3月　6名、22年12月　7名

## アウトカム２　《支援地域内でこども食堂等居場所が広く認知されるようになる》の達成状況

### 指標：①学校の協力が得られた回数（広報・訪問・イベント参加など）
### ②学校以外の子ども食堂の協力件数の増加

**初期値・初期状態**

①学校の協力が得られた回数（広報・訪問・イベント参加など）
②学校以外の子ども食堂の協力件数の増加

**目標値・目標状態**

①②
広報・訪問・イベント参加などの回数が増加する。初期値から子ども食堂への関りが増加している、また、関わりが密になる。

**目標達成時期**

２０２３年２月

**これまでの活動をとおして把握している変化・アウトカムの発現状況**

①学校の協力が得られた回数は、事業開始当初からほぼ横ばいの状況である
２０２１年度は若干増加したが、２０２２年度は２０２０年と同様の数値
２０２０年　７月　平均５回
２０２２年　７月　平均８回
２０２３年　１月　平均５回

②学校以外の子ども食堂の協力件数の増加については、事業開始当初から増加している。２０２１年度についてはフードパントリーを開始した子ども食堂も多く広報活動などを積極的に行っていたと推察される。
２０２０年　７月　平均　９回
２０２２年　７月　平均１６回
２０２３年　１月　平均　９回

# アウトカム３　《こども食堂等居場所が子どもにとってよいきっかけを生む場になる》の達成状況

## 指標：子ども食堂の満足度

| 初期値・初期状態 | これまでの活動をとおして把握している変化・アウトカムの発現状況 |
| --- | --- |
| ２８エピソード/子ども食堂運営者からの参加する子ども達が子ども食堂に対し満足している状況や変化に関する良いエピソード数 | 子ども食堂に参加している保護者からは子ども食堂で学んだ事を家庭で実施している事や家庭内での変化など前向きな意見が多く出された。<br>・食器の片付けを手伝うようになった<br>・よく食べるようになった<br>・好き嫌いが少なくなった<br>・友達が増えた<br>・子ども食堂のことを楽しく話してくれるので親子の会話が増えた<br>・子ども食堂で食べた料理が美味しかったから家でも作ってと言われた<br><br>子ども食堂運営者やボランティアスタッフからも子ども食堂に関わることにより前向きな意見が多く出された。<br>・子ども食堂のボランティアに来るのが楽しい<br>・子ども食堂に来ている子どもと街で会った時挨拶してくれた<br>・子ども食堂を運営したことにより、知り合いが増え、活動に協力してくれるようになった<br>・一緒に活動する仲間づくりができた |
| **目標値・目標状態** | |
| 各子ども食堂が子どもたちの良い変化に関するエピソードが得られ、子ども食堂の運営にも良い影響を与えている | |
| **目標達成時期** | |
| ２０２３年２月 | |

## 4-2．波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

**【生まれている波及効果（想定外、波及的・副次的効果）】**

評価計画書に記載している波及効果に関する評価小項目をお書きの上、考察をお書きください。

評価小項目）サポートセンター同士のネットワークを構築し情報交換をおこなった。

考察）福島、大阪、沖縄のサポートセンターと事業開始当初にロジックモデルづくりからおこなった事により、事業開始当初から様々な意見交換ができた。また事業の進捗などについて相談することができ、事業中においての課題対応についてもロジハブ構築や寄付食材の分配、企業への協力依頼など多くの点で活動のヒントとなり、事業推進力を上げるきっかけとなった。

# 4 -2. 事業の効率性

## 【事業の効率性について】

評価計画書に記載している事業効率性に関する評価小項目をお書きの上、考察をお書きください。

評価小項目）コロナ緊急助成で購入した車両や冷蔵冷凍庫の活用状況

考察）コロナ緊急助成で車両や冷蔵冷凍庫を購入したことにより、北九州市内のロジハブシステムが完成し、冷蔵・冷凍品を含め企業・団体・個人から多くの寄付を受けられるようになった。
購入した車両については、毎月２回を寄付物品の分配日として定期運用を行っており、冷蔵冷凍庫は市内の中核の子ども食堂（ハブ拠点）４カ所に設置し、ハブ拠点に運ばれた寄付物品を各子ども食堂が取りにいく仕組みで運用をおこなっている。

【寄付】
２０２０年度　１６ｔ
２０２１年度　３４ｔ
２０２２年度　１８ｔ（２０２３年１月現在）

# アウトカム達成度についての評価

| 事業の短期アウトカムの評価 | 左記のように評価した理由 |
| --- | --- |
| アウトカム１に関して<br>☐短期アウトカムの目標値を上回って達成できている<br>☐短期アウトカムの目標値が達成できている<br>☑短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている<br>☐短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する | 子ども食堂数や人員確保、自己資金の減少は目標を達成しているが、市民講座などでの講師数は目標に届いていないため |
| アウトカム２に関して<br>☐短期アウトカムの目標値を上回って達成できている<br>☑短期アウトカムの目標値が達成できている<br>☐短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている<br>☐短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する | 学校の協力についてはほぼ横ばいであるが、学校以外の協力では、増減はあるものの初期値よりも増加しているため |
| アウトカム３に関して<br>☐短期アウトカムの目標値を上回って達成できている<br>☐短期アウトカムの目標値が達成できている<br>☑短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている<br>☐短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する | 子ども食堂に参加している子どもの保護者やボランティアスタッフ、運営者より活動に前向きなエピソードを多く収集できたが目標数に届いていないため |

# 5．成功要因・課題

**アウトカム**

（01）地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している

（02）支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる

（03）こども食堂等居場所が子どもから高齢者まで多様な人々を包摂することができる

| | アウトカム | 要因 | 学び・課題 |
|---|---|---|---|
| 社会課題解決に貢献したアウトカム | **「こども食堂等居場所」が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材寄付を受けられるようになる** | 子ども食堂等居場所を運営するためには、運営者や協力者などの人材も必要であるが、継続し安定的に運営するためには食材の確保が重要であるが、保管施設や運搬車両などが整備されていない状況では円滑に物資を届ける事は難しいと考えていたが、本事業を通じて、多くの寄付食材を受け取る事のできるプラットホームであるロジ及びハブ拠点を整備することができた。<br>また、資金分配団体の伴走支援により北九州市内の企業や団体などへの子ども食堂への支援要請などが推進され市内外の多くの企業・団体から支援を受ける事ができ、子ども食堂の円滑な運営に繋がった。 | 本事業を通じて、様々な企業及び団体と対話をすることができ、企業の社会貢献に関する現状を学ぶことができた。<br>課題としては、寄付など行っていただいている企業・団体に対し、十分なフィードバックができていないため、その対応が急務である。 |
| 達成が困難であったアウトカム | **「こども食堂等居場所」が望む社会資源とつながることができる** | 子ども食堂を継続的におこなうためには、地域など居場所を支援する方々の理解や協力が必要であるが、新型コロナ感染拡大により対話の機会が失われ、地域と子どもの居場所が繋がっていない居場所もまだある状況にある。<br>今年度に入り地域自治組織が子ども食堂等居場所を実施することも増えてきたが、既存の子ども食堂等居場所については、今後も地域自治組織等の社会資源とつながる仕組みを構築する必要がある。 | 地域自治組織等の活動が停滞している現状においては、子ども食堂等居場所への訪問や協力をお願いすることは困難であり、これから関わりの新たなきっかけを構築していく必要がある。 |

# 6．組織基盤強化の分析

## 【組織基盤強化の分析について】

***評価小項目）４年目以降の組織としての事業継続性、資金調達計画、エコマップにより新たに構築された個人・団体との協力・連携体制***

考察）サポートセンター機能の事業継続性については、北九州市子ども家庭局子育て支援課とも継続で一致しており、事業継続に向け、子どもの居場所づくり応援基金の活用などを視野に入れた協議が進められている。また、子ども食堂数の増加により人員の強化も課題であり子ども食堂関係者（運営者やボランティアスタッフ）にもネットワーク運営に関与してもらいたいと打診をおこなっている。
子ども食堂運営者のグループフォーカスインタビューからも、「子ども食堂ネットワーク北九州がなくなってしまって、いまの機能を子ども食堂が担うようになってしまったら困る。来年度の運営予算がないと聞いているが、なくならないかが心配だ」というような発言もあり、子ども食堂ネットワーク北九州の価値を感じているというコメントであるとともに、子ども食堂ネットワーク北九州の事業継続性についてはどこか他人事のような印象もあった。

学びと課題）子ども食堂ネットワーク北九州が３年間構築してきた機能については多大な成果が上がった一方で、それに伴う事業継続への主体性の十分な醸成にはいま一歩の取り組みが必要と考えられる。
来年度以降の組織運営体制と予算などのあり方については、子ども食堂ネットワーク北九州のみならず、所属する子ども食堂にとっても重要な事柄である。今後のネットワークのあり方、子ども食堂のあり方について、子ども食堂運営者も含む子ども食堂ネットワーク北九州全体として検討が必要なのではないかと考える。

# 7．結論

## 7-1．事業実勢のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

| | 多くの改善の余地がある | 想定した水準までに少し改善点がある | 想定した水準にあるが一部改善点がある | 想定した水準にある | 想定した水準以上にある |
|---|---|---|---|---|---|
| （1）事業実施プロセス | | | ○ | | |
| （2）事業成果の達成度 | | | ○ | | |

| 上記を選択した理由 |
|---|
| 事業実施プロセスについては、「人、もの、金、情報」が回る仕組みを構築でき、子ども食堂の開設や運営が効率良くできるようになったが、北九州市内の子ども食堂増加に伴う、子ども食堂ネットワーク事務局の業務の煩雑さや子ども食堂関係者の子ども食堂ネットワーク北九州への関与、子ども食堂の自立化について事業実施プロセスや事業成果の達成度において一部改善すべき点があり、現在改善に向け取り組んでおり、本事業終了後も取り組んでいく予定である。 |

## 7-2．事業実施の妥当性

**事業実施の妥当性について、「課題やニーズの適切性」「課題やニーズに対する事業設計の整合性」「実施状況の適切性」「成果の達成状況」のすべてを振り返り、重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として自由記載してください。**

事業設計の妥当性については、子ども食堂のサポート機能として子ども食堂運営者や保護者、ボランティアスタッフなどから非常に前向きな意見が出され、子ども食堂数についても増加し運営状況においても「人、モノ、金、情報」が回る仕組みの基盤が整った。
また、食支援協が実施したアンケートでは、サポート機能がない地域とサポートセンター機能のある地域の比較では活動回数や物資提供、食事提供数も多い結果となり、北九州市においても子ども食堂への充実したサポートができたと評価できる。

**本事業では、資金**分配団体及び評価アドバイザー、他の実行団体と初期段階でロジックモデルをディスカッションにより作成したことにより、他団体との情報共有や課題の整理をすることができ、ロジックモデルにより事業が可視化され事業実施がスムーズとなるとともに、資金分配団体の伴走支援により直面する課題に対して迅速に対応することができたなどの波及効果も見られた。

事業の課題としては、子ども食堂の理解・周知の面でコロナ前には地域住民による子ども食堂見学会や支援企業への企業訪問などによりできていたことと比較すると、現状はまだ十分ではない。

## ８．提言

**評価結果に基づき事業を継続していく上で、役立つ提案・助言を記載してください。**
**本事業をどのように持続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させる戦略とその実施状況等を記載してください。**

本事業開始時に比べネットワークに関与する人員は増加しているが、子ども食堂の今後の増加を想定すると、ネットワーク運営の人員体制のさらなる強化が必要である。ネットワーク運営には子ども食堂について一定の状況を把握している人材が必要である。
現在、子ども食堂運営者に対しネットワーク運営に興味を持つボランティアスタッフなどいないかなど打診をおこなっている。
少数ではあるが、ネットワーク運営に興味を示している運営者もおり、運営における役割を明確にした上で更に検討をすすめネットワークの人員体制の強化を図っていきたいと考える。

本事業の継続では資金も必要となるため、助成金の獲得あるいは寄付等のファンドレイジングなどの実施が必要と考えられる。また。本事業を通じて、市内企業が北九州市社会福祉協議会に設置された基金に寄付をする体制が構築された点を踏まえると、それらの資金を運用資金として利用できる仕組みを検討するなども可能性があるのではないかということが関係者ヒアリングからも示唆されており、現在、基金の活用について行政の協議を進める必要がある。

# ９．知見・教訓

| 事業の経験や学びから類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓を記載してください。 |
| --- |
| 本事業に取り組んだことにより、実施前目標としていた「人、もの、金、情報」が回る仕組みを構築でき、子ども食堂の開設効率化や安定した子ども食堂に繋げることができたが、子ども食堂数が増加するとともに、子ども食堂運営者と対話する時間減少や寄付物品の分配作業、子ども食堂開設やボランティア、寄付相談なども増加し、それらに対応するため子ども食堂と十分にコミュニケーションを図ることができないなど新たな課題も発生した。<br>また、北九州市では、行政と民間の協働により子ども食堂ネットワーク北九州の機能強化に取り組んでいるが、行政の人事異動により担当者が変わり、それに伴い子ども食堂への取り組み方法の変化もあり、子ども食堂のような取り組みが変化（貧困対策→子どもの居場所→地域の居場所）する事業については１つの行政部署（北九州市子ども家庭局子育て支援課）との連携では対応できない課題が発生するなど難しさを感じた。<br>本事業終了にあたり事業開始当初からの事業実施内容を振り返ると、今後発生しうる課題を想定した人材育成や役割分担・整理の重要性を痛感した。 |